科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 2 5 日現在

機関番号: 12601

研究種目: 基盤研究(A)(海外学術調查)

研究期間: 2017~2019 課題番号: 17H01640

研究課題名(和文)イスラエル国ガリラヤ地方の新出土シナゴーグ資料に基づく一神教の宗教史再構築

研究課題名(英文)Reconstruction of a history of monotheism based upon a disconvered synagogue in the Galilee in Israel

研究代表者

市川 裕(Ichikawa, Hiroshi)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授

研究者番号:20223084

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 28,500,000円

研究成果の概要(和文): ガリラヤ地方テル・レヘシュ遺跡の最上層部で出土した簡素な集会所の遺構は、エルサレム神殿が健在だった西暦1世紀半ばに建設され、2世紀後半まで存続したことが推定できたが、同時代の既発見のシナゴーグと構造上、酷似していることからシナゴーグと同定された。シナゴーグと同定する決め手は、その遺跡がユダヤ人の居住地だったことの証明であった。石製品、調理具の蓋、質素なランプなど、穢れに対して極度に敏感な住民の意識はユダヤ法の浸透以外に考えにくい。これらの日常製品とシナゴーグの発見は、当時のユダヤ人が日常の物質文化を律法(トーラー)という宗教的規範によって律しようとする意識の高まりに由来することが認められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義 エルサレム神殿が健在だった西暦1世紀に発するシナゴーグの発見はイスラエル全体でも7例しかなく、イエスが活動したガリラヤでは都市マグダラに次いで二例目で、しかもイエスが実際に廻ったガリラヤの小規模集落のシナゴーグを想起させるものとして画期的である。また、この時代にシナゴーグが建設された理由は、「律法」によって日常生活を律しようとするユダヤ社会の宗教意識の高まりとして理解できるが、これは、ユダヤ社会が啓示法の宗教を発展させる傾向を顕著に示しており、イスラムのシャリーアの先駆としてユダヤ教を捉えることを促す。古代イスラエルの一神教は、ラビ・ユダヤ教とイスラム教という啓示法の宗教の源泉となっている。

研究成果の概要(英文): A meeting room excavated at Tel-Rekhesh of the Galilee in Israel proved to be a synagogue that was probably erected in the middle of the first century C.E., about the same period of the activity of Jesus of Nazareth, and abandoned by the second half of the next century. Similar to those first century C.E. synagogues found so far in Israel, it was a simple room with cut stone seats along the walls. The identification of such a simple room with a synagogue was attested by the fact that most Jews in Judea became so conscious of observing the Jewish divine Law at that time and this narrow site of Galilee was populated by those Jews. We concluded that the construction of a synagogue was part of 'Judaisation' of the Galilee in the sense that Galilean Jewish people began to organize daily life according to the divine precepts: they were very sensitive in abstaining ritual impurity and made use of stone vessels and rids of utensils which would reflect the Mishnaic concepts of ritual purity.

研究分野: 宗教学宗教史学

キーワード: 古代ユダヤ教 ヘレニズム ローマ都市 シナゴーグ エルサレム神殿 儀礼的不浄 新約聖書 タルムード

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1.研究開始当初の背景

本研究は、2013 年から 4 年計画で採択された基盤研究 (A)「ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究」の成果に立脚して構想された研究である。とりわけ、その最終年で、イエスの活動と同時代、同地域のシナゴーグと想定された遺構が、本研究分担者が組織する日本の発掘隊によって発見されたことから、シナゴーグの意義を明らかにすることが発見者たちの責務ともなった。

長年にわたるイスラエルとの学術交流のゆえに、現在、日本の発掘隊によってイスラエルでの発掘調査が継続的に行われてきたが、2016年8月に、イスラエル北部ガリラヤ地方の遺跡テル・レヘシュにおいて、科研最終年度に当たり、西暦1世紀のシナゴーグと同定できる遺構が発見された。この発見は、この小規模村落がユダヤ人社会であることを確証させた上に、シナゴーグの存在は、福音書や歴史家ヨセフスの記述の信憑性を高め、エルサレム第二神殿時代末期に広範囲に及ぶ宗教性の広がりと深まりを想定させ、ユダヤ社会が神殿儀礼の宗教と神の啓示を実践する宗教という両方の要素を備えた宗教として確立されたことを裏付ける証左として無視できない重要性を持つ。

西暦 1 世紀のシナゴーグ遺構は、時代的には、古代ローマ共和政後期・帝政期初期に当たるが、当時のユダヤ社会では、キリスト教が出現し、またローマ帝国との確執からユダヤ戦争が生起した時代である。イエスが活動した北部ガリラヤ地域はユダヤ国家による征服後、様ざまなレヴェルにおける「ユダヤ化」の進展、「宗教による日常生活の規範化」が生起したと考えられた。シナゴーグの建設はそうした規範化の一環として理解すべきではないかという期待が高まっていた。



テル・レヘシュ・シナゴーグ(2017年8月15日空撮)

2.研究の目的

本科研基盤研究は、古代ユダヤを例にとって、宗教が日常生活に浸透して宗教的に規範化する様相を明示することである。これを「宗教による日常生活の規範化」と呼ぶことにする。この「日常生活の規範化」がシナゴーグ研究を通して概念化できれば、ユダヤ教の「法の宗教」としての性格を、歴史的にも跡付けることができる。それによって、一神教の二つの流れを識別し、

キリスト教とは異なる性格を有する一神教として、ユダヤ教の展開を理解することができる、その先には、「法の宗教」としてラビ・ユダヤ教と共通点を有するイスラム教のシャリーアの特質を明確に概念化することが容易になるであろう。

西暦1世紀のユダヤ社会とシナゴーグは、2世紀以後に展開するラビ・ユダヤ教共同体と異邦 人キリスト教共同体へと飛躍を遂げる極めて重要な時代と位置付けることができるのであり、 シナゴーグ・共同体・宗教生活をめぐる既成観念を見直して一神教史の再構築を行うにはふさわ しい研究対象となった。

そこから本研究は、この歴史的に重大な変革期における一神教の宗教史的展開を「宗教による 日常生活の規範化」の観点から総合的にとらえなおすことを目的とする。具体的には、以下の3 つの論点を中心として、成果を提示していく。

- (1)シナゴーグ遺構の発掘を完了させて、その全体像を明らかにするとともに、集落の住民の どんなニーズに対応したものなのかを考察する。発掘遺物と文献資料を用いて、ガリラヤ地方の 住人がユダヤ人なのか、非ユダヤ人なのかを明らかにする。ガリラヤのユダヤ人は、エルサレム やユダ地方のユダヤ人に比べて過激なのか、法規範に厳格だったかなども含む。
- (2) エルサレム神殿が存在する時代にシナゴーグが作られていることから、両者の関係について考察する。当時のユダヤ人の宗教意識にとって、神殿儀礼と神殿中心の世界観が中心を占めていたと前提したとき、律法による日常生活の規範化という意識は神殿儀礼から派生したものなのか、それとも神殿とは独立した新たな宗教的ニーズなのかを考察する。
- (3) 萌芽的な関心として、エルサレム神殿の崩壊後、異邦人キリスト教とラビ・ユダヤ教が並行して発展する中で、西暦 200 年ころ成立したミシュナの歴史的意義に着目して、ローマ法との比較から新たな意義を発見する。

3.研究の方法

本研究は、通常の発掘調査における考古学的研究、隣接地域の遺跡発掘参加、各地の発掘 地踏査による比較研究、歴史学的文献研究、宗教学宗教史学的考察等を合わせた学際的総合 研究を目指している。とりわけ、長年の学術交流から日本の発掘隊がイスラエルで遺跡調査 を行い、発見された西暦 1 世紀のシナゴーグ遺構を総合的歴史研究の中心に据えることが できた点は、学術的にみてきわめて幸いである。

当該西暦 1~2 世紀のイスラエルのガリラヤ地方は、キリスト教の発祥の地であり、またユダヤ人が領土を部分的に再征服してユダヤ化が進んだ地域であることから、発掘地の住民の出自をユダヤ人と前提することはできない。そのため、住民の出自を探る方法論として、宗教的規範の日常生活への影響、あるいは、物質文化自体が宗教規範の拘束を受けるという観点からの考察が不可欠であった点が特筆に値する。発掘地テル・レヘシュの西暦 1~2世紀の住人をユダヤ人と特定するうえで、出土物の持つ特徴が穢れに対する忌避の意識を反映すると解釈されたことは決定的に重要であった。

発掘された遺構は、石灰岩の切り石の座席を四面の壁に沿ってめぐらしただけの矩形の部屋であり、それだけでは単なる集会場でしかない。もちろん、同種類の構造を持つ遺構が西暦 1 世紀のエルサレム周辺のユダ地方に6~7例すでに発見されていたことから、ユダヤ人のシナゴーグと同定できる蓋然性は高い。しかし、住民が誰かが判明しない以上、単なる集会場かもしれないのだ。幸い、ガリラヤ湖西岸のマグダラ遺跡とガリラヤ湖東岸のゴラン地方のガムラでシナゴーグと思しき遺構が発見されたことで、当時のガリラヤにユダ地方と同種のシナゴーグの存在が証明されたことで、ガリラヤのユダヤ人社会にシナゴーグ

が存在したことが前提できるようになっていた。しかし、当該遺跡テル・レヘシュは小規模な集落で、住民の数は都市マグダラとは比べ物にならないほど少人数だから、50 人程度収容できる集会場が作られたこと自体も驚きである。住人がユダヤ人であったことがわかることによって、その用途や必要性を理解することができたといえよう。

本研究によって、出土物から住民の出自を推理するという視点、あるいは、物質文化から住人の文化的傾向を認識する新たな視点が生まれた。日常生活の物質文化が宗教規範によって拘束を受けることで生活文化の特徴が明確化する時代になった。これがきっかけで、J・リュプケ氏の「生きられた古代宗教」という研究視点との問題意識が共有できたことにより、新たな研究分野への可能性が開けた。

4. 研究成果

小規模集落におけるシナゴーグの存在が実証されることによって、その地域が単にユダヤ人によって居住されるようになったというばかりでなく、日々のユダヤ人の日常生活がどのように特殊ユダヤ教的色彩を帯びるに至ったかを推定することができるようになった。日常生活への「律法主義」の浸透である。

このことは、ユダヤ人の日常生活において、トーラーの教えが浸透していく傾向を顕著に示していると考えることができ、ユダヤ教的視点において、キリスト教の発祥の地ともなったガリラヤの意義を論ずることが可能であり、ラビ・ユダヤ教からイスラムへの啓示法的一神教の発展を宗教史的観点から明確に位置付けることが期待される。

以下に、3つの研究目的に即して成果を詳説する。

(1) テル・レヘシュのシナゴーグをめぐる研究

発掘調査やサーベイによって得られた出土物によって、ローマ時代のテル・レヘシュに 裕福なユダヤ人が住んでいた可能性が補強された。・とりわけ重要な発見となったシナゴー グ建造物について、古代の他のシナゴーグとの比較の結果、テル・レヘシュのシナゴーグが 紀元後1世紀に年代づけられることはより確実性を増した。

これまでに発見された紀元後 1 世紀の都市のシナゴーグやユダヤ戦争時のユダヤ軍によって作られたシナゴーグなどと比べ、テル・レヘシュのシナゴーグは新約聖書においてナザレのイエスが訪れていたとされる村々のシナゴーグの姿により近いものと思われる。

ユダヤ教にとってはガリラヤおよびユダヤにおけるシナゴーグの最古の事例の 1 つとして、キリスト教にとってはナザレのイエスの活動場所を具体的に想起させる建物の事例として大きな意義を有するものとなった。

新約聖書、とりわけ共観福音書における「シナゴーグ」への言及が、歴史的に見て後代の状況(紀元70年以降、例えばマルコ、マタイの状況)ないしはガリラヤ以外の状況 (例えばパウロやルカの前提するヘレニズム諸都市)を、イエス時代のガリラヤへ「投影」したものではなく、正当に歴史的な核を備えた原伝承に由来することが、テル・レヘッシュ遺跡におけるシナゴーグ跡の発掘から証明された。

ガリラヤにおけるイエス伝承の発祥の少なからぬ部分が、イエスが語ったであろう様々な町村の「シナゴーグ」集会という「生活の座」に遡源しうる可能性が想定できた。また、その伝承(口頭)の更なる拡散にもシナゴーグ集会が寄与したことが伺え、福音書伝承史のリアルな場が見えるようになった。

(2) 日常生活の宗教規範化

シナゴーグが1世紀のユダ地方とガリラヤ地方のお席で7ないし8例発見され、いず

れも、固定した聖櫃、礼拝対象としての神の座を有していない。四壁に沿って石灰岩の切り石の座席を並べた構造は、ここが集会を主要目的とした施設であることを示す。

神殿との関係に着目して歴史的変遷も加味してシナゴーグを 2 つに類型化すると、西暦 1 世紀のシナゴーグは「神殿との併存としてのシナゴーグ」であるが、3 世紀以降、ガリラヤの固定した「アロン・コデシュ聖櫃」を備えたシナゴーグは、「神殿の代替物としてのシナゴーグ」である。前者が 1 世紀になってイスラエル地方で発見されたことから、シナゴーグ建設は、決してバビロン捕囚前後の昔から存在したのではなく、日常生活の律法規範化と何らかの関係があるものと想定される。

日常生活の規範化の特徴は、パリサイ派が固執した2つの規定、 穢れの類型化と浄化法の実行と イスラエルの地の産物から十分の一税の厳格に取り分けることは、すでによく知られた内容だが、発掘で見られる石灰石性のメジャリング・カップやエルサレム方面から持ち込まれた陶器類、ランプなどから、穢れに対する厳格な意識がユダヤ社会の物質文化を特徴づけるまでになっていることが実証された。

穢れに対するラビたちの観念やユダヤ教の規範との関連を実証するのが土器資料、とりわけ食に関する食器・調理器の「フタ」の重要性の発見である。フタ資料はミシュナの記述からユダヤ民族の日常生活においてその規範化を考えるうえで大変重要な資料だが、考古学者はこれまでフタを器の付属品程度としかとらえてこなかったため、発掘現場における出土土器分類の際に、フタの出土が想定されておらず、仮に出土しても小水差しの下部、皿、鉢等に分類されてしまうことがしばしばである。このことを指摘できた。フタを見分けるうえでどのような点に注意すべきかを具体的な指標として示し、またフタ単体で見るのではなく身との関係性に注目することが最重要。

神殿が穢れを嫌うことは通文化的に確認されるとしても、ユダヤ社会では、神殿供犠は祭司とレビ人の回想の特権であり、一般のユダヤ人とは深い関わりはなかった。では、いつからパリサイ派や死海教団において一般のユダヤ人の日常生活へも穢れの意識が浸透するのか。本科研では、神殿改革において、一般のユダヤ人が日々といけにえに立ち会うことを義務付ける法解釈が実施されたことにその主要な原因を見出した。これは、また歴史的には、ユダヤがハスモン朝で独立して先祖の土地を再征服する過程で生じた聖地観念とも関係すると解釈される。

(3)ローマ法とユダヤ法との関係。

2019 年 9 月のシンポジウムを通して、J・リュプケ氏の「生きられた古代宗教」の 視点からの研究成果に触発されて、「宗教と法」の既成概念への挑戦の意味合いを込め た構想を立てることができた。リュプケ氏は、研究の重要な要素として、都市化、宗教 的仲介者、法規範の制定を挙げた。これらの要素は、ユダヤ教において西暦 200 年ころ に編纂された口伝トーラー「ミシュナ」の成立をめぐる時代状況と符合することに本研 究代表者は大きなヒントを得た。これは令和 2 年度科学研究費基盤研究 (A)「生きられ た古代宗教の視点による古代ユダヤ変革期東地中海世界の総合的宗教史構築」研究代表 者市川裕に引き継がれる。詳細は、研究計画調書参照。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件(うち査読付論文 18件/うち国際共著 7件/うちオープンアクセス 5件)

「日本誌論又」 詳28件(つら宜読刊論又 18件/つら国際共者 7件/つらオープンアグセス 5件)	
1 . 著者名	4.巻
市川裕	389
2.論文標題	5 . 発行年
ユダヤ教の経済観念 正しい道理の富	2017年
3.雑誌名 宗教研究	6.最初と最後の頁 27-51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名	4.巻
ICHIKAWA Hiroshi	23
2.論文標題	5 . 発行年
Prospects of Japanese Translation of the Babylonian Talmud	2018年
3.雑誌名 ParDeS(Universitatsverlag Potsdam)	6.最初と最後の頁 183-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1 . 著者名	4. 巻
ICHIKAWA Hiroshi	ISSN 2186-5175, CISMOR
2.論文標題	5 . 発行年
Talmudic Discussion in Japanese: On the Possibility of Cultural Innovation	2018年
3.雑誌名 Judaism and Japanese Culture: Studies in Honor of Joel Hoffmann, The 9th CISMOR Annual Conference on Jewish Studies, November 27,28 ,2016	6.最初と最後の頁 162-173
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
市川裕	91巻別冊(電子出版)
2 . 論文標題	5 . 発行年
イスラエル、ガリラヤ地方の新出土シナゴーグの宗教史的意義	2018年
3.雑誌名 宗教研究	6.最初と最後の頁 259 260
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	 査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

1 . 著名名		
2. 論文程題	1.著者名	4 . 巻
2 - 論文模型 ・		
 聖書名字の最前線・イスラエル、エン・ゲヴ連醇とレヘシュ連節・	来你人力。10个大10	171
 聖書名字の最前線・イスラエル、エン・ゲヴ連醇とレヘシュ連節・		
3. 納証名 季刊考古学	2.論文標題	5 . 発行年
3. 納証名 季刊考古学	聖書老古学の最前線 - イスラエル・エン・ゲヴ遣跡としへシュ遺跡 -	2017年
### 18		2011
### 18	- 1011	6 B40 B// 6 T
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし		6.最例と最後の貝
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	季刊考古学	66-69
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回離 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回離 コリティ 世界の は		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回離 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回離 コリティ 世界の は		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回離 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが回離 コリティ 世界の は		*** * * * ***
1 著名名 2 -	掲載論又の001(テンタルオノシェクト識別子)	貧読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4. 巻	なし	無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4. 巻		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 4. 巻	ナーゴンマクセフ	国際
1. 著名名 桑原久男・山野貴彦・津本英利		当际共有
桑原久男・山野青彦・津本英利 特条号 2. 論文視題 ガリラヤ最初期のシナゴーグを握る - イスラエル剣テル・レヘシュ遺跡第11次発掘調査(2017年) - 3・競行年 2017年 5・発行年 2017年 3・雑誌名 *第22回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント - a 日本西アジア考 古字会 6・最初と最後の頁 49-52 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 該当する 1・著者名 **Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 130 2・論文標題 **Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 5・発行年 2018年 3・雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot- esi.org.il/report_detail_eng,aspx?ld=25397&mag_id=126) 6・最初と最後の頁 - 2017年 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし 直読の有無 1・著名名 長谷川修一 4・巻 141 1・著者名 長谷川修一 4・巻 141 2・論文標題 報書古学の現在 5・発行年 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 4・整 141 5・発行年 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 4・整 141 2・論文標題 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 毎期と最後の頁 70-73 2・競力と最後の頁 70-73	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
桑原久男・山野青彦・津本英利 特条号 2. 論文視題 ガリラヤ最初期のシナゴーグを握る - イスラエル剣テル・レヘシュ遺跡第11次発掘調査(2017年) - 3・競行年 2017年 5・発行年 2017年 3・雑誌名 *第22回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント - a 日本西アジア考 古字会 6・最初と最後の頁 49-52 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 該当する 1・著者名 **Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 130 2・論文標題 **Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 5・発行年 2018年 3・雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot- esi.org.il/report_detail_eng,aspx?ld=25397&mag_id=126) 6・最初と最後の頁 - 2017年 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし 直読の有無 1・著名名 長谷川修一 4・巻 141 1・著者名 長谷川修一 4・巻 141 2・論文標題 報書古学の現在 5・発行年 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 4・整 141 5・発行年 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 4・整 141 2・論文標題 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 毎期と最後の頁 70-73 2・競力と最後の頁 70-73		
桑原久男・山野青彦・津本英利 特条号 2. 論文視題 ガリラヤ最初期のシナゴーグを握る - イスラエル剣テル・レヘシュ遺跡第11次発掘調査(2017年) - 3・競行年 2017年 5・発行年 2017年 3・雑誌名 *第22回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント - a 日本西アジア考 古字会 6・最初と最後の頁 49-52 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし 国際共著 該当する 1・著者名 **Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 130 2・論文標題 **Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 5・発行年 2018年 3・雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot- esi.org.il/report_detail_eng,aspx?ld=25397&mag_id=126) 6・最初と最後の頁 - 2017年 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)なし 直読の有無 1・著名名 長谷川修一 4・巻 141 1・著者名 長谷川修一 4・巻 141 2・論文標題 報書古学の現在 5・発行年 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 4・整 141 5・発行年 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 4・整 141 2・論文標題 2017年 3・雑誌名 表刊考古学 6・最初と最後の頁 70-73 毎期と最後の頁 70-73 2・競力と最後の頁 70-73	1 至老夕	/1
2. 論文標題 ガリラヤ屋初期のシナゴーグを握る - イスラエル剣テル・レヘシュ遺跡第11次発掘調査(2017年) - 2017年 3. 雑誌名 『第25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 古学会 掲載論文の201(デジタルオブジェクト識別子) なし 1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 2. 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 2018年 3. 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) #裁論文の201(デジタルオブジェクト識別子) なし 1. 著者名 長谷川修一 2. 論文標題 オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 長谷川修一 2. 論文標題 第141 2. 論文標題 第25		
ガリラヤ最初期のシナゴーグを握る・イスラエル刺テル・レヘシュ濃藤第11次発展調査(2017年)・ 2017年 3. 陰話名 *第25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 も一プンアクセス ました。	緊 原久男・山野貢彦・ 澤 本央利	行朱亏
ガリラヤ最初期のシナゴーグを握る・イスラエル刺テル・レヘシュ濃藤第11次発展調査(2017年)・ 2017年 3. 陰話名 *第25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 も一プンアクセス ました。		
ガリラヤ最初期のシナゴーグを握る・イスラエル刺テル・レヘシュ濃藤第11次発展調査(2017年)・ 2017年 3. 陰話名 *第25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 も一プンアクセス ました。	2 . 論文標題	5 . 発行年
3 . 雑誌名		
### 25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 古学会 名話の有無 有	カッフィ取別州のシテコークを掘る - 1 人フエル列ナル・レヘンユ退跡	2017年
### 25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 古学会 名話の有無 有		
### 25回西アジア発掘調査報告会報告集・平成29年度 考古学が語る古代オリエント・a 日本西アジア考 古学会 名話の有無 有	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
古学会 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1 . 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 2 . 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス 1 . 著者名 長谷川修一 2 . 論文標題 聖書考古学の現在 3 . 雑誌名 李刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 4 . 巻 141 2 . 論文標題 聖書考古学の現在 3 . 雑誌名 李刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ない 現載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ない 現式程題 聖書考古学の現在 3 . 雑誌名 李刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ない 現式日本 第2017年 3 . 雑誌名 李刊考古学 周載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ない 周載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ない 周載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) ない 日際共著		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		-1 0-02
なし 有 オープンアクセス 国際共著 該当する	白子云	
なし 有 オープンアクセス 国際共著 該当する		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 該当する	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する 3	& O	H
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する 3		
1 . 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 2 . 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 1 . 著者名 長谷川修一 2 . 論文標題 聖書考古学の現在 3 . 雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) な	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 2 . 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス 1 . 著者名 長谷川修一 2 . 論文標題 聖書考古学の現在 3 . 雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) な	オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが闲難	該当する
Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 130 2 . 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 6 . 最初と最後の頁 - 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 6 . 最初と最後の頁 14. 整書者古学の現在 5 . 発行年 2017年 3 . 維誌名 季刊考古学 6 . 最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 直読の有無 無 オーブンアクセス 国際共著		
Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz 130 2 . 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 6 . 最初と最後の頁 - 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 重読の有無 無 オープンアクセス 国際共著 6 . 最初と最後の頁 14. 整書者古学の現在 5 . 発行年 2017年 3 . 維誌名 季刊考古学 6 . 最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 直読の有無 無 オーブンアクセス 国際共著	. ***	. 24
2 . 論文標題 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 6 . 最初と最後の頁 - 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オーブンアクセス 国際共著 長谷川修一 1 . 著者名長谷川修一 4 . 巻 141 2 . 論文標題豊書古学の現在 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名季刊考古学 6 . 最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 無 オーブンアクセス 国際共著	1.者者名	4 . 巻
2 . 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 5 . 発行年 2018年 3 . 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 6 . 最初と最後の頁 -	Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz	130
Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 2018年 3. 雑誌名		
Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report 2018年 3. 雑誌名	2 50 全个1年的	c
3 . 雑誌名		
Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126)	lel Rekhesh 2015: Preliminary Report	2018年
Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126)		
Hadashot Arkheologiyot (http://www.hadashotesi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126)	3.雑誌名	6 最初と最後の百
esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126) 査読の有無 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 国際共著 オープンアクセス 国際共著 1.著者名長谷川修一 4.巻 2.論文標題聖書考古学の現在 5.発行年2017年 3.雑誌名季刊考古学 6.最初と最後の頁70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 オープンアクセス 国際共著	** *** *	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		-
# 日際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する 1 . 著者名 長谷川修一	esi.org.ii/report_detaii_eng.aspx?id=25387&mag_id=126)	
# 日際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する 1 . 著者名 長谷川修一		
# 日際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する 1 . 著者名 長谷川修一	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 該当する 1 . 著者名 長谷川修一 4 . 巻 141 2 . 論文標題 聖書考古学の現在 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 季刊考古学 6 . 最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)該当する1 . 著者名 長谷川修一4 . 巻 1412 . 論文標題 聖書考古学の現在5 . 発行年 2017年3 . 雑誌名 季刊考古学6 . 最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	4 U	
オープンアクセスとしている(また、その予定である)該当する1 . 著者名 長谷川修一4 . 巻 1412 . 論文標題 聖書考古学の現在5 . 発行年 2017年3 . 雑誌名 季刊考古学6 . 最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)該当する1 . 著者名 長谷川修一4 . 巻 1412 . 論文標題 聖書考古学の現在5 . 発行年 2017年3 . 雑誌名 季刊考古学6 . 最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	オーブンアクセス	国際共著
1 . 著者名 長谷川修一 4 . 巻 141 2 . 論文標題 聖書考古学の現在 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 季刊考古学 6 . 最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	
長谷川修一1412.論文標題 聖書考古学の現在5.発行年 2017年3.雑誌名 季刊考古学6.最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	3 7777 CNCO CVIO (& CL (CW) / CW O)	₩^ 1 0
長谷川修一1412.論文標題 聖書考古学の現在5.発行年 2017年3.雑誌名 季刊考古学6.最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
長谷川修一1412.論文標題 聖書考古学の現在5.発行年 2017年3.雑誌名 季刊考古学6.最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
2.論文標題 聖書考古学の現在5.発行年 2017年3.雑誌名 季刊考古学6.最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	1.著者名	4.巻
聖書考古学の現在2017年3.雑誌名 季刊考古学6.最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		_
聖書考古学の現在2017年3.雑誌名 季刊考古学6.最初と最後の頁 70-73掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		_
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	長谷川修一	141
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	長谷川修一 2.論文標題	5 . 発行年
季刊考古学 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	長谷川修一 2.論文標題	5 . 発行年
季刊考古学 70-73 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 無 オープンアクセス 国際共著	長谷川修一	5 . 発行年
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無 オープンアクセス 国際共著	長谷川修一 2 . 論文標題 聖書考古学の現在	141 5 . 発行年 2017年
# また	長谷川修一2.論文標題 聖書考古学の現在3.雑誌名	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
# また	長谷川修一2.論文標題 聖書考古学の現在3.雑誌名	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
# また	長谷川修一2.論文標題 聖書考古学の現在3.雑誌名	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
# また	長谷川修一2.論文標題 聖書考古学の現在3.雑誌名	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	長谷川修一 2. 論文標題 聖書考古学の現在 3. 雑誌名 季刊考古学	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 70-73
	長谷川修一 2.論文標題 聖書考古学の現在 3.雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 70-73 査読の有無
	長谷川修一 2.論文標題 聖書考古学の現在 3.雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 70-73 査読の有無
	長谷川修一 2. 論文標題 聖書考古学の現在 3. 雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 70-73 査読の有無
オーフンアクセスではない、乂はオーフンアクセスが困難	長谷川修一 2.論文標題 聖書考古学の現在 3.雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 70-73 査読の有無
	長谷川修一 2.論文標題 聖書考古学の現在 3.雑誌名 季刊考古学 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス	141 5 . 発行年 2017年 6 . 最初と最後の頁 70-73 査読の有無 無

1 (
2	1 . 著者名	4 . 巻
2	江添誠	11
カグラで逸幣されたコインにみるフェニキアの影響 2018年 2018年 3. 雑誌名 21-27		
おがうで造幣されたコインにみるフェニキアの影響 2018年 2018年 3 、韓誌名 文化遺産学研究 6 . 最初と最後の頁 21-27 2	2 SAD-HARD	г 2 8/=/т
3. 雑誌名 文化遷産学研究		
文化遺産学研究 21-27 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 重読の有無無無 オープンアクセス 国際共著 1 . 著書名市川裕 4 . 巻 50 2 . 論文標題古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名聖書学論集 6 . 最初と最後の頁23 - 44 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 重読の有無有 1 . 著書名市川裕 4 . 巻 33 2 . 論文情題	ガダラで造幣されたコインにみるフェニキアの影響	2018年
文化遺産学研究 21-27 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 重読の有無無無 オープンアクセス 国際共著 1 . 著書名市川裕 4 . 巻 50 2 . 論文標題古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名 2mm学論集 6 . 最初と最後の頁23 - 44 オープンアクセス 国際共著 6 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 7 . 2019年 1 . 養書名市川裕 3 . 2019年 2 . 論文標題 (シンボジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的澎涼 2019年 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名 コグヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁1・12 1 . 2 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 7 . 2 査読の有無有 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 6 . 2 国際共著 7 . 2 1 . 著書名 4 . 巻 4 . 巻		
文化遺産学研究 21-27 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 重読の有無無無 オープンアクセス 国際共著 1 . 著書名市川裕 4 . 巻 50 2 . 論文標題古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名 2mm学論集 6 . 最初と最後の頁23 - 44 オープンアクセス 国際共著 6 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 7 . 2019年 1 . 養書名市川裕 3 . 2019年 2 . 論文標題 (シンボジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的澎涼 2019年 5 . 発行年2019年 3 . 雑誌名 コグヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁1・12 1 . 2 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)なし 7 . 2 査読の有無有 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 6 . 2 国際共著 7 . 2 1 . 著書名 4 . 巻 4 . 巻	つ 株性タ	6 是知と是後の百
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 無		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 市川裕 - 2019年	文化遺産学研究	21-27
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 市川裕 - 2019年		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 市川裕 - 2019年		
## オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 市川裕 - 2019年		木芸の左無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 50	· ·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	なし	無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 50 2 . 論文標題 古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 聖書学論集 6 . 最初と最後の頁 23 - 44 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) なし 重読の有無 7 オーブンアクセス 大ーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 4 . 巻 33 1 . 著者名 市川裕 くシンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 2. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オーブンアクセス 国際共著 イーブンアクセス 1 . 著者名 4 . 巻		
市川裕 50 2 . 論文標題 古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 聖書学論集 6 . 最初と最後の頁 23 - 44 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 市川裕 1 . 著書名 市川裕 2 . 論文標題 <>シンボジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名	オーノンアクセスではない、又はオーノンアクセスが困難	-
市川裕 50 2 . 論文標題 古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 聖書学論集 6 . 最初と最後の頁 23 - 44 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 市川裕 1 . 著書名 市川裕 2 . 論文標題 <>シンボジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名		
市川裕 50 2 . 論文標題 古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 聖書学論集 6 . 最初と最後の頁 23 - 44 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無 有 オープンアクセス 市川裕 1 . 著者名 市川裕 2 . 論文標題 < シンボジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名	1	/
2 . 論文標題		_
古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 2019年 3.雑誌名 聖書学論集 6.最初と最後の頁 23・44 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無有 オープンアクセス 国際共著 - 1.著者名市川裕 4.巻 33 2.論文標題 < シンボジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 2019年 5.発行年2019年 3.雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6.最初と最後の頁1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし 査読の有無有 オープンアクセス 国際共著 - オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻	마川슘	50
古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 2019年 3 . 雑誌名 23 - 44 4 . 巻 3 . 雑誌名 23 - 44 23 - 44 23 - 44 23 - 44 23 - 44 24 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 26 - 44 26 26 - 44 26 26 26 26 26 26 26		
古代ユダヤ教の贖罪儀礼と悔い改め 心の内と儀礼 2019年 3 . 雑誌名 23 - 44 4 . 巻 3 . 雑誌名 23 - 44 23 - 44 23 - 44 23 - 44 23 - 44 24 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 25 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 - 44 26 - 44 26 26 - 44 26 26 - 44 26 26 26 26 26 26 26	2 . 論文標題	5 . 発行年
3 . 雑誌名 聖書学論集 6 . 最初と最後の頁 23 - 44 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オーブンアクセス 国際共著 - 1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 33 2 . 論文標題 < ランポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 1 . 著者名 国際共著 - 1 . 著者名 4 . 巻		
理書学論集 23 - 44 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	白1/17 / 外の順手展化(世代)の 心の内と懐化	2019年
理書学論集 23 - 44 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし		
理書学論集 23 - 44 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	3 . 雑誌名	6.最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 33 2 . 論文標題 < シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 4 . 巻	王百十배朱	ZJ - 44
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 33 2 . 論文標題 < シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 . 著者名 4 . 巻		
### おープンアクセス 国際共著 国際共著 1 . 著者名 1 . 著者名 1 . 表述 1 . 表述 2 . 論文標題 2 . 論文標題 2 . 論文標題 2 . 分 が ジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 2 . 最初と最後の頁		
### おープンアクセス 国際共著 国際共著 1 . 著者名 1 . 著者名 1 . 表述 1 . 表述 2 . 論文標題 2 . 論文標題 2 . 論文標題 2 . 分 が ジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 2 . 最初と最後の頁	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス 国際共著 1. 著者名 市川裕 4. 巻 33 2. 論文標題 < シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5. 発行年 2019年 3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6. 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 1. 著者名 国際共著 4. 巻	· ·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	40	月
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 33 2 . 論文標題 < シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1 . 著者名 4 . 巻	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 市川裕 4 . 巻 33 2 . 論文標題 < シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6 . 最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1 . 著者名 4 . 巻	オープンアクセフでけない、又けオープンアクセフが困難	_
市川裕 33 2.論文標題 <ランポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5.発行年 2019年 3.雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6.最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1.著者名 4.巻	カープラファクと人ではない、人はカープラファクとハル四年	
市川裕 33 2 . 論文標題 < シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 5 . 発行年 2019年 3 . 雑誌名		
2 . 論文標題	1.著者名	4.巻
2 . 論文標題	市川裕	33
くシンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 2019年 3.雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6.最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1.著者名 4.巻	1971III	
くシンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相 > 解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流 2019年 3.雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究 6.最初と最後の頁 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1.著者名 4.巻	6 AA-LIEDE	= 7v./= h=
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 ユダヤ・イスラエル研究 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 - オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻	2 . 論又標題	5.発行年
3.雑誌名 6.最初と最後の頁 ユダヤ・イスラエル研究 1-12 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 - オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻	<シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相>解題、および、一神教の二つの流れとその歴史的源流	2019年
ユダヤ・イスラエル研究 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 4.巻		·
ユダヤ・イスラエル研究 1-12 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1.著者名 4.巻	2 사학 전	6 見知と見後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻	ユダヤ・イスラエル研究	1-12
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1.著者名 4.巻		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1.著者名 4.巻		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 - 1.著者名 4.巻	担動会立のDOI(ごごねリオブご・カト神叫フト	本性の方無
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻		
オープンアクセス 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1.著者名 4.巻	オープンアクセス	国際共著
1. 著者名 4. 巻		ロボハコ
	オーノンアクセスではない、 又はオーノンアクセスか困難	-
	1 茎老名	A
葛西康德 51	蜀 凶康恺	51
2.論文標題 5.発行年	2 . 論文標題	5 . 発行年
古代ギリシア教に改宗することはできるか 2019年		
ロバナンンと教に以示することはできるが、	ロルナソノア教に以示することはとこのが、	20194
3.雑誌名 6.最初と最後の頁	3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
史友 27-52		
21-32	~~	2. 02
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし		
な ひ	'& U	Ħ
オープンアクセス 国際共著	オーブンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -		_
コープンプラー こうこう スプラン・コンプラー こうしゅう コンプラン・ロック ロック・コンプログ コンプラー コンフ	コーノファットへ こはない 、人はコーノファットに対	-

1.著者名	4 . 巻
桑原久男・山野貴彦・津本英利	1 1
Allowed Harris	
2 * 4 + 4 = 1 =	F 38/-/-
2 . 論文標題	5 . 発行年
ガリラヤ地方最初期のシナゴーグを掘る - イスラエル国テル・レヘシュ第11次発掘調査(2017年) -	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
『平成29年度考古学が語る古代オリエント』日本西アジア考古学会	49-52頁
- 平成29年及考古子が語る古代オリエント』日本四アンア考古子云	49-02貝
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	
オープンデッと人とはない、又はオープンデッと人が四無	-
	1. "
1.著者名	4 . 巻
Mordechai Aviam, Hisao Kuwabara, Shuichi Hasegawa and Yitzhak Paz	46
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
2 . 論文標題	5 . 発行年
A 1st & 2nd Century CE Assembly Room (Synagogue?) in a Jewish Estate at Tel Rekhesh, Lower	2019年
Galilee	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Tel Aviv	128-142
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	
10.1080/03344355.2019.1587227	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
	_
Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz	130
2.論文標題	5 . 発行年
Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report	2018年
To the state of th	20.0
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
** *** *	
Hadashot Arkheologiyot , http://www.hadashot-	web出版
esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25387&mag_id=126	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
	////
ナープンフクセフ	
オーブンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1 . 著者名	4 . 巻
Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz	131
oneron haseyawa, msao kuwabata anu mtalian Faz	101
0 AA-JEEF	- 3v./
2.論文標題	5.発行年
Tel Rekhesh 2016: Preliminary Report	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Hadashot Arkheologiyot, https://www.hadashot-	web出版
	WED LLI NIX
esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25534&mag_id=127	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
<u> </u>	該当する
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	m

1 527	4 . 巻
1 . 著者名 牧野久実	4.含 20
秋野久夫	20
2 - 50-4-1-161日	r 35/=/=
2.論文標題	5.発行年
パレスティナから出土したヘレニズム・ローマ時代のフター特に身との関係から	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
西アジア考古学	85-96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクヤス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
カープンプラビス にはない、 人はカープンプラビスが 四無	
1 英型々	4 . 巻
1. 著者名	
上村静	33
2.論文標題	5 . 発行年
クムランと死海文書 神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
ユダヤ・イスラエル研究	13-25
	10 20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
上村静	978-4-86376-078-3
2.論文標題	5 . 発行年
第2神殿時代におけるガリラヤのリーダーたち ユダヤ性への問い	2020年
SIZE TO SECOND S	2020—
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン	163-188
48 884A A L BAR C	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
なし	有
なし	有
なし オープンアクセス	有
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子	有 国際共著 - 4.巻 978-4-86376-078-3
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題	有 国際共著 - 4.巻 978-4-86376-078-3 5.発行年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子	有 国際共著 - 4.巻 978-4-86376-078-3
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に	有 国際共著 - 4.巻 978-4-86376-078-3 5.発行年 2020年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に	有 国際共著 - 4.巻 978-4-86376-078-3 5.発行年 2020年
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 273-299
なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 273-299
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 273-299
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 273-299 査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 . 著者名 勝又悦子 2 . 論文標題 「民」と「自由」と「偶像崇拝」 出エジプト記ラッバ41章を中心に 3 . 雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	有 国際共著 - 4 . 巻 978-4-86376-078-3 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 273-299

1.著者名 KATSUMATA Etsuko	4.巻 ¹⁴
2.論文標題 Toward Investigation of Democracy in Jewish Thought: Freedom, Equality, and Dimos in the Rabbinic Literature	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名 Journal of the Interdisciplinary Studies of Monotheistic Religion, Doshisha University	6 . 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 土居由美	4.巻 978-4-86376-078-3
2.論文標題 ユダヤ教からキリスト教へ 異教世界と接して	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン	6.最初と最後の頁 189-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 中西恭子 	4. 巻 978-4-86376-078-3
2.論文標題 アウグスティヌス「神の国」における「地上の国の宗教」	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン	6.最初と最後の頁 221-240
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 EZOE Makoto	4.巻 12
2 . 論文標題 The Coins Catalogue in Gadara-Umm Qais	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名 文化遺産学研究	6.最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著

1.著者名	4 . 巻
江添誠	54(2)
	` ′
2 1000年1月1日	r 38/=/=
2 . 論文標題	5 . 発行年
考古資料からみる第一次ユダヤ戦争のガリラヤ攻防における戦闘状況	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
軍事史学	38-58
里 丁 丈子	30-30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
	F
オープンアクセス	国際共著
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	国际共有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
—	978-4-86376-078-3
嶋田英晴	310-4-00310-U18-3
2.論文標題	5 . 発行年
中世イスラーム世界のユダヤ社会における教育と波紋の機能について	2020年
ヒョハノ コヒがツーノド江ムにのけるお月と次級の版化にフリー	2020 T
0 hbt-d7	こ 目知し目後でモ
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
勝又・柴田・志田・高井(編)『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』(リトン	301-317
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
コーノファフ にかくはく 八はコーノファフ にかが 四共	-
4. ****	4 24
1.著者名	4 . 巻
山野貴彦	49
2 . 論文標題	5 . 発行年
·····	
テル・レヘシュ・シナゴーグ	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本聖書学研究所編『聖書学論集』	29-48
니 ጥ 보는 T WI JUTAM 전 보는 T III 자신	20-40
Termina A	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
e	'*
ナーゴンマクセフ	国際共著
オーブンアクセス	当你 六有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
	·
	4 . 巻
	· 4 · 全
1.著者名	_
1 . 著者名 山野貴彦	4 . 중 1
山野貴彦	1
	_
山野貴彦	1
山野貴彦 2.論文標題	5 . 発行年
山野貴彦 2 . 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて	1 5.発行年 2019年
山野貴彦2 . 論文標題	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
山野貴彦 2.論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3.雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リト	1 5.発行年 2019年
山野貴彦2 . 論文標題	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
山野貴彦 2.論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3.雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リト	1 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
山野貴彦 2. 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3. 雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388
山野貴彦 2 . 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3 . 雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388 査読の有無
山野貴彦 2 . 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3 . 雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388
山野貴彦 2 . 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3 . 雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388 査読の有無 有
山野貴彦 2 . 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3 . 雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388 査読の有無 有
 山野貴彦 2 .論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3 .雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし オープンアクセス 	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388 査読の有無
山野貴彦 2 . 論文標題 紀元後1世紀のガリラヤ・サマリア・ユダヤにおける住居の形態 テル・レヘシュの事例研究に向けて 3 . 雑誌名 日本新約学会編『イエスから初期キリスト教へ新約思想とその展開』(青野太潮先生献呈論文集)、リトン社 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	1 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 369-388 査読の有無 有

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件)
1.発表者名
市川裕
2.発表標題
イスラエル、ガリラヤ地方の新出土シナゴーグの宗教史的意義
3 . 学会等名
日本宗教学会
4.発表年
2017年
1.発表者名
市川裕
2 . 発表標題
ユダヤ教の法と伝承 タルムードはなにを議論しているのか
3.学会等名
3 . 子云寺台 日本オリエント学会(招待講演)
ロやグラエントテム(川川時次)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
江添誠
2.発表標題
ティルスとガダラ ~トランス・ヨルダン地域におけるフェニキアの表出~
2.
3 . 学会等名 日本オリエント学会
ロ平グリエンド子云
4.発表年
2017年
1. 発表者名
牧野久実
2.発表標題
パレスティナから出土したヘレニズム・ローマ時代のフタ 型式分類と編年の構築に向けて Typology and Chronology of Lids from the
Hellenistic and Roman Periods in Palestine
2
3.学会等名
日本西アジア考古学会
4.発表年
2017年

1 . 発表者名
市川裕
What is Lived "Halakhic Religion" ?
3 . チ云寺日 日本宗教学会第78回学術大会開催校企画パネル
4.発表年
2019年
1. 発表者名
Joerg Ruepke
2 . 発表標題
The Concept of "Lived Ancient Rerigion"
日本宗教学会第78回学術大会開催校企画パネル2019
4. 発表年
2019年
1.発表者名
2. 発表標題 Making of the Concept of "Paganism" in the Later Roman Empire
making of the concept of Faganism in the Later koman Empire
3.学会等名
日本宗教学会第78回学術大会開催校企画パネル2019
4.発表年
2019年
1.発表者名
土居由美
Difference in Way of Living in "History Religion"
3 - デスサロ 日本宗教学会第78回学術大会開催校企画パネル2019
4.発表年
2019年

1. 発表者名
ICHIKAWA Hiroshi
2 . 発表標題
The Historical Significance of A Newly Discovered Synagogue in the Galilee, Israel
3.学会等名
The XIth Congress of the European Association for Jewish Studies, Krakow, Poland(国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
HASEGAWA Shuichi, H. Hashimoto, H. Tsumoto and T. Onozuka
2 . 発表標題
The Excavations at Tel Rekhesh, Israel: The Results of 2013-2017 Seasons
3.学会等名
The 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East in Munich(国際学会)
4 . 発表年
2018年
1
1.発表者名 HASEGAWA Shuichi
1 . 発表者名 HASEGAWA Shuichi
HASEGAWA Shuichi
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題
HASEGAWA Shuichi
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona)
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静 2 . 発表標題 クムランと死海文書:神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静 2 . 発表標題 クムランと死海文書: 神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から 3 . 学会等名
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静 2 . 発表標題 クムランと死海文書:神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静 2 . 発表標題 クムランと死海文書: 神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から 3 . 学会等名 日本ユダヤ学会シンボジウム「古代後期のユダヤ教研究の諸相: 3つの視点から」(於学習院女子大学)
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静 2 . 発表標題 クムランと死海文書:神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から 3 . 学会等名 日本ユダヤ学会シンポジウム「古代後期のユダヤ教研究の諸相:3つの視点から」(於学習院女子大学) 4 . 発表年
HASEGAWA Shuichi 2 . 発表標題 Hopper-rubber mills in the eastern Mediterranean and its historical implications 3 . 学会等名 EAA Annual Congress 2018 (European Association of Archaeologists) (University of Barcelona, Barcelona) 4 . 発表年 2018年 1 . 発表者名 上村静 2 . 発表標題 クムランと死海文書: 神殿時代末期のユダヤ社会の同時代史的視点から 3 . 学会等名 日本ユダヤ学会シンボジウム「古代後期のユダヤ教研究の諸相: 3つの視点から」(於学習院女子大学)

1.発表者名
中西恭子
2.発表標題
ローマ敵国の「キリスト教化」とユダヤ教
3.学会等名
日本ユダヤ学会シンポジウム「古代後期のユダヤ教研究の諸相:3つの視点から 」(於学習院女子大学)
4.発表年
2018年
2010-7-
4 75±240
1 . 発表者名
市川裕
2.発表標題
一神教の二つの流れとその歴史的源流
3.学会等名
日本ユダヤ学会シンポジウム「古代後期のユダヤ教研究の諸相:3つの視点から」(於学習院女子大学)
1年エグドチェブンホンプム 日代後期のエグド教明九の間相 . 3 Dの抗点から」(於子自防文 1 八子)
4 . 発表年
2018年
1.発表者名
MAKINO Kumi
2.発表標題
Study of lids in Palestine during the Hellenistic and Roman periods– Through the ancient's potter's view
orday of the interesting the netromotro and nomin portons into another a porton a view
3.学会等名
24th European Association of Archaeologists, Annual Congress, Barcelona, Spain2018 (国際学会)
. The day has
4. 発表年
2018年
1.発表者名
MAKINO Kumi
2.発表標題
Development of a unified database of ancient pottery fragments
2 24 4 77 73
3 . 学会等名
25th European Association of Archaeologists, Annual Congress, Bern, Switzerland2019(国際学会)
4.発表年
2019年

1.発表者名 牧野久実	
2 . 発表標題 ヘレニズム・ローマ時代のフタ パレスティナ北部ガリラヤ地域の状況	
3.学会等名 日本西アジア考古学会第23回総大会2018	
4 . 発表年 2018年	
1.発表者名 江添誠	
2.発表標題 出土遺物に何を問いかけ、何を語らせるか?	
3 . 学会等名 日本西洋史学会 第68回大会 小シンポジウム2018	
4 . 発表年 2018年	
1.発表者名 牧野久実、江添誠、ミハエル・アイゼンベルグ	
2.発表標題 ヘレニズム時代のエン・ゲヴ遺跡とヒッポス遺跡	
3.学会等名 日本西アジア考古学会大会ポスター発表	
4 . 発表年 2019年	
〔図書〕 計3件 1.著者名	4.発行年
細田あや子	2017年
2.出版社 三弥井書店	5.総ページ数 356
3.書名 生と死と祈りの美術	

1.著者名	4.発行年
市川裕	2019年
2.出版社	5.総ページ数
岩波書店	189
3 . 書名	
ユダヤ人とユダヤ教	
1 . 著者名	4.発行年
勝又・柴田・志田・高井(編)	2020年
2 1005	- M
2.出版社	5.総ページ数
(リトン	423
3 . 書名	
『一神教世界の中のユダヤ教 市川裕先生献呈論文集 』	
〔産業財産権〕	
(注条)(注)	
(7.0%)	

〔その他〕

6.研究組織

	υ,			
		氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
Ī		佐藤 研	立教大学・名誉教授・名誉教授	
	研究分担者	(SATO Migaku)		
		(00187238)	(32686)	

6.研究組織(つづき)

6	. 研究組織(つづき)		T
L	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	桑原 久男	天理大学・文学部・教授	
研究分担者	(KUWABARA Hisao)		
	(00234633)	(34602)	
	細田 あや子	新潟大学・人文社会科学系・教授	
研究分担者	(HOSODA Ayako)		
	(00323949)	(13101)	
	上村 静	尚絅学院大学・総合人間科学系・教授	
研究分担者	(UEMURA Shizuka)		
	(00447319)	(31311)	
	高井 啓介	関東学院大学・国際文化学部・准教授	
研究分担者	(TAKAI Keisuke)		
	(00573453)	(32704)	
	月本 昭男	上智大学・神学部・教授	
研究分担者	(TSUKIMOTO Akio)		
	(10147928)	(32621)	
	土居 由美	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・研究員	
研究分担者	(DOI Yumi)		
	(50751038)	(12601)	
	勝又 悦子	同志社大学・神学部・准教授	
研究分担者	(MATSUMATA Etsuko)		
	(60399045)	(34310)	
	長谷川 修一	立教大学・文学部・准教授	
研究分担者	(HASEGAWA Shuichi)		
	(70624609)	(32686)	
<u> </u>	(. 552 1555)	V: -==/	

6.研究組織(つづき)

6	. 研究組織(つづき)		
	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	葛西 康徳 (KASAI Yasunori)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授	
	(80114437)	(12601)	
研究分担者	江添 誠 (EZOE Makoto)	神奈川大学・外国語学部・講師	
者	(80610287) 牧野 久実	(32702) 鎌倉女子大学・教育学部・教授	
研究分担者			
	(90212208)	(32705)	
研究分担者	高久 恭子(中西恭子) (TAKAKU Kyoko)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・研究員	
	(90626590)	(12601)	
研究協力者	嶋田 英晴 (SHIMADA Hideharu)		
研究協力者	山野 貴彦 (YAMANO Takahiko)		